

モモ病害虫の発生状況（8月）

（1）モモせん孔細菌病

8月の新梢葉での発生ほ場割合は、平年より低い状況でしたが（図1）、秋期に降水量が多いと、翌年の春型枝病斑が多くなる傾向にありますので、秋期防除を徹底して、越冬菌密度の低下を図りましょう。

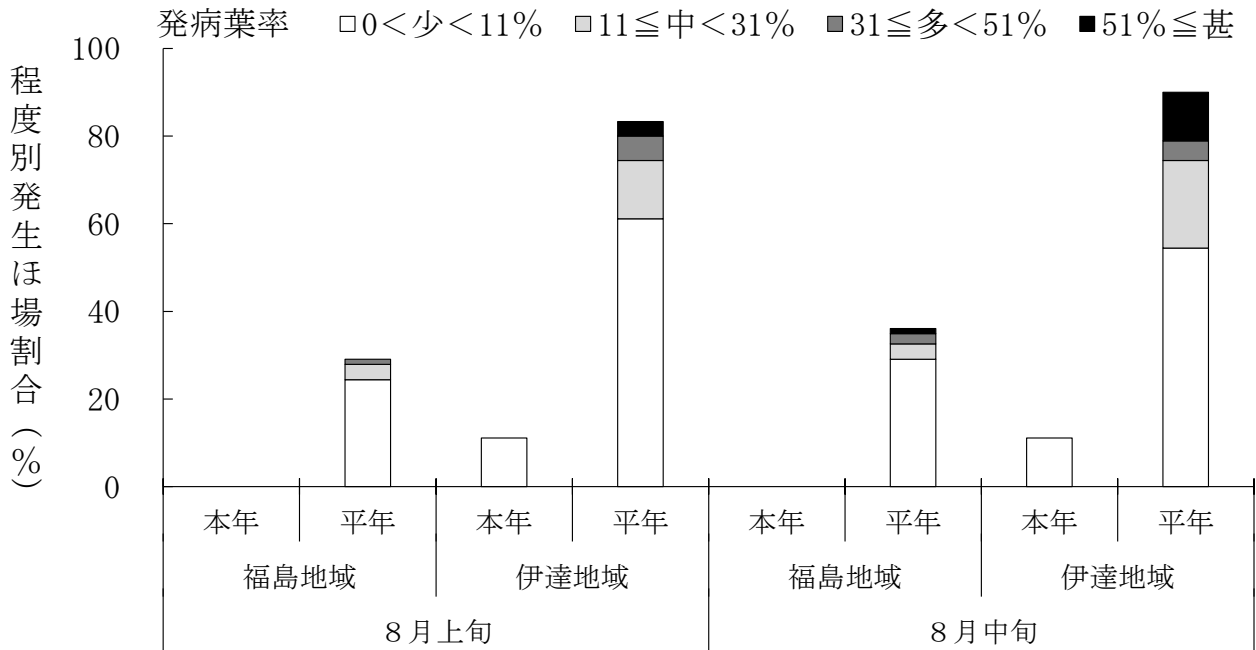


図1 モモせん孔細菌病の新梢葉での発生状況（8月上旬、中旬）

（2）モモハモグリガ

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並でした（図2）。

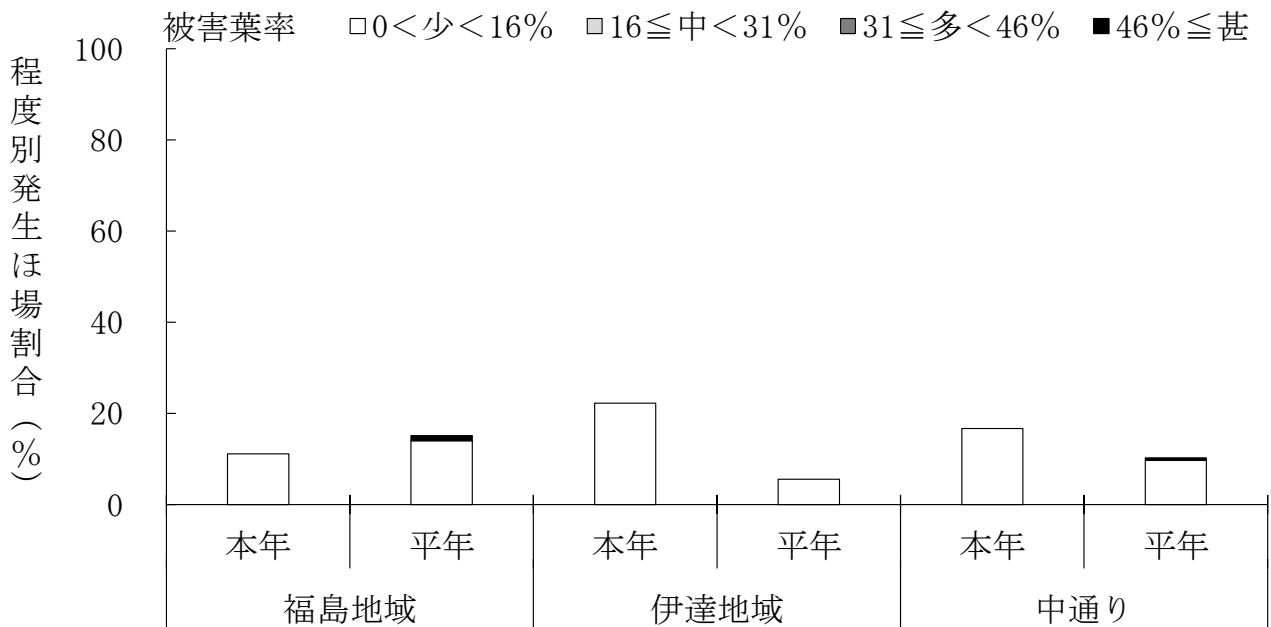


図2 モモハモグリガの発生状況（8月中旬）

(3) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図3）。

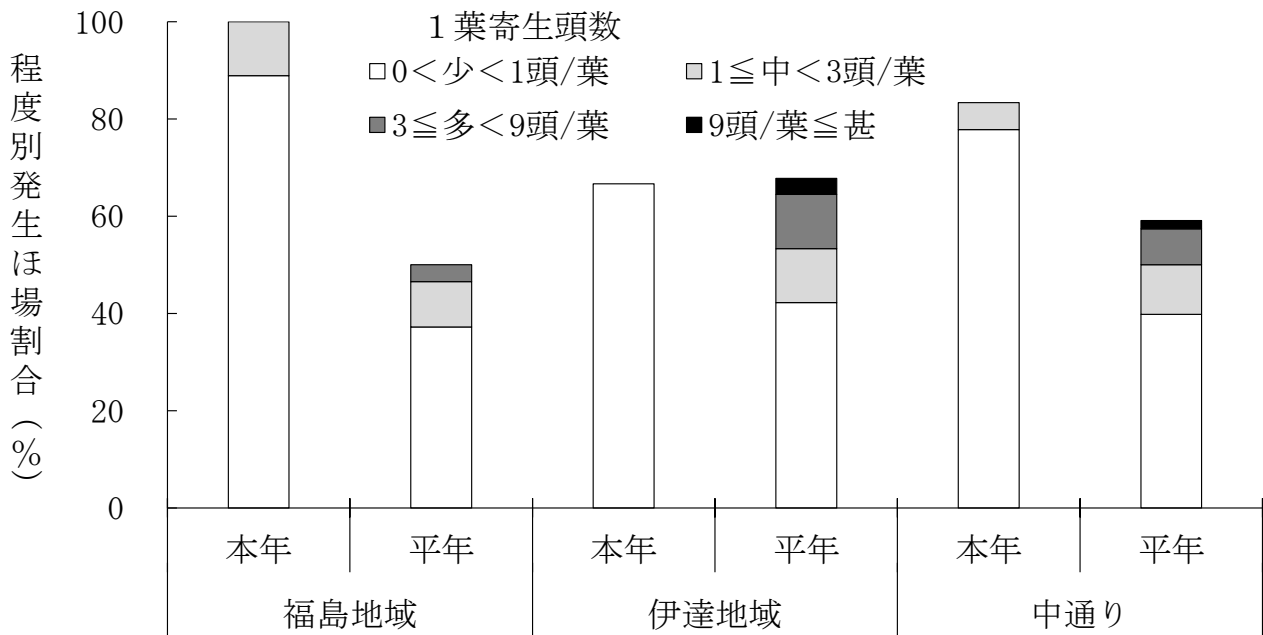


図3 ハダニ類の発生状況（8月中旬）

(4) ナシヒメシンクイ

新梢のナシヒメシンクイによる被害の発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（図4）。ナシヒメシンクイ第4世代成虫の誘殺盛期は、気温が2℃ 高く推移した場合、8月6半旬頃と予測され、第5世代幼虫の防除適期は、9月1半旬頃と推定されています（農業総合センター果樹研究所、8月26日現在）。モモやナシの果実被害や近隣のモモやウメ等の核果類の芯折れの発生状況に注意し、県農作物病害虫防除指針や地域の防除暦を参考に、農薬使用基準を遵守し、防除を徹底しましょう。

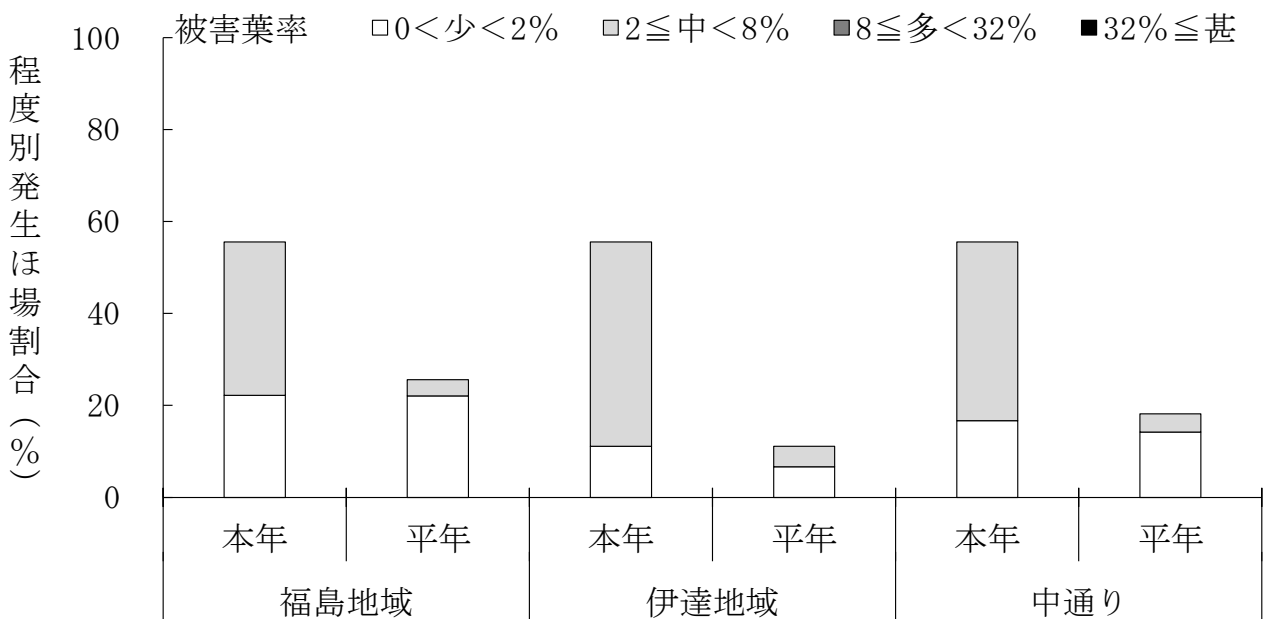


図4 ナシヒメシンクイによる新梢の被害状況（8月上旬）